

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 5 日現在

機関番号：34316

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2011～2012

課題番号：23720029

研究課題名（和文） ウイグル文 唯識文献の解読と復元

研究課題名（英文） The Decipherment and the Reconstruction of the Lehrtext in Old Uyghur

研究代表者

橘堂 晃一（KITSUDO KOICHI）

龍谷大学・仏教文化研究所・研究員

研究者番号：00598295

研究成果の概要（和文）：仏教を信奉した西ウイグル国（10世紀～14世紀）は、多くの経典を自らの言葉に翻訳・著述した。本研究は、現在ベルリンに保管されている法相宗の教義体系を表したウイグル語の写本断片を解読し、本来の構成を復元した。これによりウイグル仏教の新たな一面を提示することができた。

研究成果の概要（英文）：The West Uyghur Kingdom (ca. 10th~14th century) had a faith in Buddhism, and translated or wrote many Buddhist scriptures in Old Uyghur. Among them there are many fragments representing the doctrine of the Faxiang School in the Berlin collection. In this study I managed to decipher and reconstruct them and could show new dimension to the history of Uyghur Buddhism.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	1,600,000円	480,000円	2,080,000円

研究分野：仏教史

科研費の分科・細目：哲学、印度学・仏教学

キーワード：①中央アジア、②ウイグル語、③法相宗、④唯識

1. 研究開始当初の背景

これまでに確認されているウイグル語に翻訳された仏典は、数・種類ともに豊富である。とくに庄垣内正弘氏による一連のウイグル語アビダルマ文献の研究は、伝存しない安慧（スティラマティ）の漢訳『阿毘達磨俱舍論実義疏』からの翻訳とあって、仏教史的にも、また言語学的にも第一級の価値を持っている。このようにアビダルマ文献に対する研究は深化しているが、中国仏教でアビダルマ学と共に学習されていた唯識学のウイグル語文献については、十分に研究されているとは

言い難い。これを補完することでウイグル仏教学にあらたな展開を開くことが期待される。

2. 研究の目的

ベルリン・ブランデンブルグ科学アカデミーの一研究部門であるトルファン研究所に *Lehrtext*（教義書）と分類される写本群（約200点）がある。本研究は、トルファン研究所を訪問して、これら約200点のウイグル語写本断片のすべてを閲覧し、正確なテキスト・データを作成することを目的とする。ま

た本資料が依拠した典籍を明らかにし、可能な限り復元する。その次の段階として本資料と他のウイグル仏典との比較を通して、ウイグル国における翻訳グループや学派の存在をさぐり、仏教社会史の一端を解明したいと考えている。

3. 研究の方法

(1) トルファン研究所のウェブサイト上から閲覧できる写本のデジタル写真資料をダウンロードし、唯識文献の総数を確認する。それに基づいた解説を試みる。

(2) この作業で作成されたデータをもとに、トルファン研究所を訪問し、全ての唯識文献に関わる写本を閲覧する。

(3) 解説・復元作業を完了し、語彙索引を作成する。

(4) ベルリン以外の機関が所蔵するウイグル語写本を調査し、唯識文献を収集する。

4. 研究成果

(1) テキストの作成と復元

約 200 点の写本断片のテキストと和訳を作成。章番号、葉数を保存する断片から、順に配列することから開始した。またそれらの情報を欠く断片については、内容を分析することにより、本来の順序を確定した。また接合可能な断片、あるいは接合はしないが一葉を形成する断片を見出すことができた。これによりほとんどの断片について、元の順序に配当することができた。

(2) 内容分析

解説作業を通じて *Lehrtext* は第 18 章、19 章、20 章、21 章、22 章、章数不明の章、そして 30 章を保存することが判明した。第 30

章を除いた他の章は、菩薩の修道論が説かれている。そこで説かれる修道体系は、基本的に『成唯識論』で展開される修道体系に沿った論書となっている。『成唯識論』十巻は、世親の『唯識三十頌』に対する十家による注釈のうち、護法 (Dharmapāla) の注釈を正義として合採したものである。瑜伽行の実践とその階梯は、このうち第二十六頌から第三十頌とそれに対する注釈によって明らかにされるところである。瑜伽行唯識派の修道階梯は、①資糧位、②加行位、③通達位、④修習位、⑤究境位の五段階 (五位) に分けられる。*Lehrtext* はこのうちの①と②を部分的に保存している。以下、各章の内容について簡単に説明したい。

第 18 章

第 18 章は複数の論書 (『大乘入道次第』、『瑜伽師事論』など) からの抜粋文を任意に組み合わせることによって構成される。それは決して無秩序なものでなく、三つの主題に適合する内容を組み合わせている。その主題とは、残存する内容から判断して、①菩薩が初めて発心する条件としての「四因」、②発心した菩薩が退屈する諸相、③菩薩が修道すべき「六波羅蜜」である。「入道次第」は「菩薩の発心せるは四種縁・四因・四力に由りて而して能く發心す」としている。さらに③は資糧位にある菩薩が行すべき福智の資糧、すなわち六波羅蜜・三十七菩提分法・四摂事・四無量心を解説したものであることは明らかである。

第 19 章

唯識教義の支柱となる「三性説」の内の「遍計所執性」と「依他起性」に対応するウイグル訳を確認・復元できる。すなわち、遍計所執性は、*alquni atqandaçï-qa [adqanyuluq*

töz] がこれにあたり、依他起性に対しては *adinlar tayaqinga turmiš töz* が在証される.. ただしこのわずかな情報から第 19 章の全容を把握することは困難である。

第 20 章

瑜伽行派の行位体系で資糧位に包摂される四十心、すなわち十信・十住・十行・十廻向のうち、第 19 章が十信と十住に費やされている可能性が高いことを前節で確認した。続く第 20 章では、十行と十廻向が驚くほど詳細に解説されている。しかしそれは法相宗の論書あるいは註釈書からの引用ではなく、于闐出身の実叉難駄陀 (*Śikṣānanda*) 訳の『大方広仏華嚴経』(Taishō no. 279, vol. 10 : 以下「八十華嚴」)の十行品(巻第十九, 二十)と十廻向品(巻第二十三～巻第三十二)を依用している。

第 21 章

これより加行位の解説に入る。加行位とは「前の十廻向の第十法界無量廻向位の満心において、唯識の実性に住せんと求める四善根位」を言う。「唯識論」でいえば、第二十七頌「現前立少物 謂是唯識性 以有所得非實住唯識」とそれに対する釈にあたる。第 21 章では、『成唯識論』および、『成唯識論述記』に依拠しつつ、それに頼りきることなく難解な教理を平易にまとめることに成功している。

第 22 章

3 葉分の極一部を保存するのみで、内容を知ることはいかなる。

番号不明の章

慈恩大師の『観弥勒菩薩上生兜率天経賛』の冒頭部分からの引用である。仏身に関する内

容を含んでいることから、本書の結論部分に担当した。

第 30 章

第 30 章は、玄奘(602-664 年)の求法の足跡とその功績とを、注釈文を交えながら讃嘆する、*Lehrtext* の中でもとりわけ異彩を放っている章である。玄奘の伝記としては『大唐大慈恩寺三蔵法師伝』があり、これはウイグル文にも翻訳されている。*Šingqo Šāli Tutung* (勝光阿闍梨都統)によって翻訳された *bodistv taito samtso ačariniŋ yoriyin uqitmaq atliŋ tsi-en-čüen tegmä kavi nom bitig* (菩薩大唐三蔵阿闍梨の行いを蹟らかにすると名付ける慈恩伝という詩誦)があるが、それとは異なる内容を持っている。この章は、*Lehrtext* の締めくくりとして、本論とは無関係に挿入された章ではないかと推測される。

(3) 索引作成

ウイグル語唯識用語を収集することができた。これらはウイグル語のアビダルマ文献とならんで、今後のウイグル語仏典研究に大きく寄与するであろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

(1) Koichi Kitsudo, *Khitan Influence on the Uighur Buddhism, Manuscripts through the Ages*, forthcoming 2013, (査読有)

(2) 橘堂晃一「旅順博物館所蔵のウイグル語仏典」、『中央アジア出土の仏教写本』, 2012 年, pp.61-70. (査読有)

(3) Imre Galambos and Koichi Kitsudo, *Tachibana Zicho's exploration in Central Asia*,

Bulletin of the School of Oriental and African Studies 75-1, 2012, pp. 113-134.(査読有)

(4) Koichi Kitsudo, Two Chinese Buddhist texts written by Uighurs, in: *Acta Orientalia* vol. 64, 2011, 325-343. (査読有)

(5) 橘堂晃一「清野謙次旧蔵敦煌写本の一断片によせて」, 『杏雨』第14号, 2011年6月, pp. 320-328頁. (査読無)

[学会発表] (計6件)

(1) Koichi Kitsudo, The Four Wisdoms in the Uyghur Buddhist Terminology, International Symposium on Central Asian Philology, 2012年12月24日(於: 中華人民共和国, 北京, 中央民族大学)

(2) 橘堂晃一「ベゼクリク第20窟の歴史的意義」, シンポジウム: シルクロードの仏教文化—ガンダーラ・クチャ・トルファン—, 日時: 2012年11月3日, 場所: 龍谷大学.

(3) 橘堂晃一「仏教資料のデジタル化と公開・活用をめぐる」, 人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん2011」, 2011年12月11日(於: 龍谷大学)

(4) 橘堂晃一「旅順博物館所蔵のウイグル語仏典」, 国際シンポジウム「中央アジア出土の仏教写本」, 2011年10月10日(於: 龍谷大学)

(5) 橘堂晃一「大谷探険隊将来ウイグル語仏教文献」, 「大谷探険隊をめぐる新研究」, 2011年9月8日, 印度学仏教学大会, (於: 龍谷大学)

(6) Koichi Kitsudo, The Lehrtext and Bodhisattvacaryāmārga (Pelliot Ouigour 4521), 古代トルコ語国際ワークショップ, 日時: 2011年6月5日, 場所: トルコ共和国アンカラ ヒルトンホテル/トルコ言語協会主催.

(1) 研究代表者

龍谷大学仏教文化研究所・客員研究員

橘堂 晃一 (KITSUDO Koichi)

研究者番号: 00598295

6. 研究組織